



梶谷 真司 (KAJITANI Shinji)

東京大学大学院総合文化研究科 教授

京都大学文学部卒業、
京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程・博士課程修了。

帝京大学文学部・外国語学部助教授、東京大学大学院総合文化研究科 准教授を経て、2015年より現職。

専門分野は、哲学（特に現象学）、比較文化、医学史（特に日本の江戸から明治にかけて）。

現象学——特にハイデガー、およびヘルマン・シュミッツの〈新しい現象学〉——の立場から、世界における人間のあり方について、身体、感情、共同性、民俗、宗教などとの連関で研究してきた。またそうした人間存在を文化的・歴史的に具体化して捉えるために、江戸時代から明治時代にかけての日本の医療・育児についても研究している。最近はこれまでしてきたことを「現実の多元性」というテーマのもとに統合し、哲学理論としての構築を目指している。近年では、「共生のための国際哲学研究センター (UTCP)」で、哲学対話のプロジェクトを推進し、また総合地球環境学研究所で社会変革から環境問題に取り組む理論と実践に取り組んでいる。

主な著作として、『新現象学運動』（共編）（世界書院 1999）、『シュミッツ現象学の根本問題——身体と感情からの思索』（京都大学学術出版会 2002）、「集合心性と異他性——民俗世界の現象学」（『雰囲気と集合心性』京都大学学術出版会 2001）、「雰囲気と宗教——シュミッツ現象学による比較宗教論の可能性」（関西大学東西学術研究所編『関西大学東西学術研究所創立50周年記念国際シンポジウム'01 報告書——東と西の文化交流』 2004）、「江戸時代における身体観の変化とその哲学的意義——蘭医方以前と以後の育児書を手掛かりにして」（実存思想協会編『実存思想論集 XXIII アジアから問う実存』 2008）、訳書としてゲルノート・ベーム『雰囲気の美学——新しい現象学の挑戦』（共編訳）（晃洋書房、2006）、他多数。